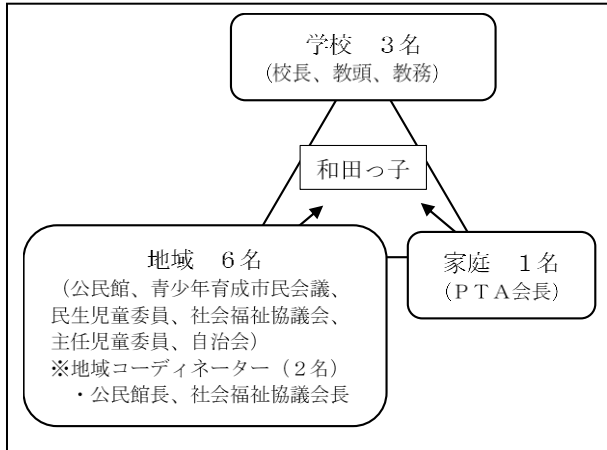


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

第1回 6月27日(木)

- ・本年度の学校経営方針と児童の活動等
- ・地域の情報交換

第2回 2月26日(水)

- ・学校評価と本年度の教育活動の反省
- ・地域の情報交換
- ・給食に対する意見交換

(3) 協議会における成果と課題

地域コーディネーターと学校が、育てたい子どもの姿について共通した考えをもつよい機会となった。今後は、それぞれの役割やより効果的な指導・支援の在り方について、協力して検討していく必要がある。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の方々のアドバイスをもとに、田植えや稲刈りなどの農業体験活動、地域のデイホームやこども園を訪問して年長者や年少者と交流する活動、ふるさとの偉人を調査してまちづくりを考える活動、地域の祭りでエコへの取組をPRする活動など、地域の方々とふれあう活動を行うことにより、ふるさとの愛着と誇りをもち、進んで地域と関わろうとする児童を育成する。

(2) 活動の実際

①稲作体験(3年生)

地元の農家の方々が一緒に田んぼに入って、田植えの方法を手とり足とり教えてくださったお陰で、最初は田んぼに入ることを躊躇していた子どもたちも、泥の感触を楽しみながら田植えのたいへんさを感じることができた。秋には、自分たちが植えた田んぼの稲刈りも体験することができた。鎌で稲を刈り、稲束をつくり、はさ掛けする作業は、3年生にとって少しむずかしいものだったが、農家の方のサポートで何とかこなすことができた。コンバインで刈る様子も見学することができ、手作業のたいへんさと機械の便利さを体感することができた。



②デイホーム訪問(4年生)

総合的な学習な学習の時間を利用してデイホーム訪問を行った。訪問を前に子どもたちは、社会福祉協議会会長のアドバイスを受けながら、どんなゲームをすると地域のお年寄りのみなさんが喜んでくれるのか一生懸命考え、工夫を凝らしたオリジナルゲームを準備することができた。訪問当日、実際にお年寄りと一緒にゲームをしてみると、みなさんがたいへん喜んでくださりその笑顔に、子どもたちは遣り甲斐を感じるとともに、地域の方のために活動する喜びと地元への愛着を感じることができた。



③こども園訪問（５年生）

総合的な学習の時間の一環として、地域のこども園の園児との交流を行った。最初に、秋季校内体育大会に園児を招待し、一緒に競技を観戦して応援することを通して、小学校の行事の楽しさ感じてもらい、園児の小学校入学への期待を高めることができた。また後日、クラスごとにこども園を訪問し、こども園の先生のアドバイスを受けながら、自分たちが考えたゲームを園児と一緒に楽しんだ。この体験を通して、小学校入学前の年少者に対する配慮の大切さについて考えることができた。また、将来就くであろう職業について考えるいい機会にもなった。



④ふるさと福井の歴史探検（６年生）

歴史の学習とふるさと学習を兼ねて福井の偉人に関する史跡を巡る歴史探検を実施した。①橋本佐内・柴田勝家コース、②橘曙覧・グリフィスコース、③松平春嶽・結城秀康コースの３コースに分かれ、福井市歴史ボランティアの語り部の方にお話をさせていただきながら、福井の歴史と偉人の業績について学習することができた。またその後は、郷土歴史博物館と養浩館を訪れ歴史的な建物や品々を見学し、そのすばらしさを感じることができた。歴史探検で学んだことは、「福井の歴史パンフレット」にまとめて公民館に掲示し、地域の方にも見ていただけるようにした。また、「福井市の歴史を今後のまちづくりにどのように生かしていくか」をテーマに公民館長と意見交換をする場を設け、助言をいただいた。



（３）地域コーディネーターの活動概要

- ・お年寄りと児童の交流では、どのような活動をするとお年寄りの方々に喜んでもらえるか、楽しんでもらえるかなど、児童に適切なアドバイスをした。また、各地区デイホーム訪問の日程調整も行った。
- ・児童の作成したパンフレットをもとに、これからのまちづくりについての意見交換やパンフレットへの助言などを行った。

（４）特に工夫した事項

- ・地域の方とのふれあいの中で、これまでの児童の活動を認めていただくことを通して児童が、達成感や満足感を味わうことができるように配慮した。地域の方に、どのように児童と関わり、どんな声かけやアドバイスをしていただくかについて、事前に打ち合わせをしたことが、教育的効果を上げることに繋がった。
- ・「生きた体験と発表の場」を設け、児童が自分たちの活動を振り返り、自分の言葉でしっかりと話すことを通して、思考・判断力、表現力を伸ばすことができるよう配慮した。また、地域の方と直に交流して、地域の方に喜んでいただいたり、感想を聞かせていただいたりすることで、交流の場が、児童にとって生きた学習の場・評価の場になり、今後の活動に対する意欲につながった。

（５）成果と課題

- 様々な体験を行う中で、地域の方々の思いや願いにふれることを通して、児童は、自分の今の生活やこれからの生き方について考える機会をもつことができた。
- 自分自身が地域のことをよく調べる活動を行ったことにより、児童はこれまで以上に、和田地区はもちろん福井市への愛情と誇りをもつことができるようになった。
- 地域での体験活動の時間の確保が課題である。そのために、総合的な学習と各教科・特別な教科道徳・特別活動・学校行事等との教科横断的なカリキュラム・マネジメントをしっかりと行っていく必要がある。